

令和7年度第6回青谷地域振興未来会議 議事概要

日時：令和8年2月19日（木）午後1時30分～4時00分

会場：青谷町総合支所 多目的ホール

【出席委員】

青木 綾、秋田典昭、井上智朗、浦島考雄、大谷 茜、小谷峻一、田内伸一、棚田美紀雄、浜野幸子、山田由理子

【欠席委員】

斎藤智範、長谷川優

【事務局】

<青谷町総合支所>

佐々木支所長、田中副支所長兼地域振興課長(併教育委員会事務局青谷町分室長)、高野産業建設課長、金崎市民福祉課長、山田地域振興課課長補佐

【日程】

- 1 開会
- 2 会長あいさつ 田内会長
- 3 議題

【報告事項】

- (1) 未来会議意見の対応状況について (資料1)
- (2) 青谷バスのダイヤ改正について (資料2)
- (3) 令和7年度の公聴（地域の未来づくり懇談会、勝部を語る会）について (資料3)
- (4) 鳥取大学地方創生プロジェクトについて (資料4)
- (5) 公共施設の管理について (資料5)

【協議事項】

- (1) 空き家の有効活用、移住定住支援について (資料6)
- (2) 青谷高校活性化を支援する会について (資料7)

4 その他

5 閉会

◎議事概要

<報告事項>

(1) 未来会議意見の対応状況について

事務局より説明

委員提案「おとな食堂」について、原案を検討するコアメンバーについて報告した。今後はメンバーで協議し、原案を作成後に未来会議で改めて報告する予定。

【委員】今回、メンバーの連絡が直前だったため、未来会議後に開催したかったが出来なかった。次回は早めに調整を行い、全員の都合を考慮した上で、スムーズに開催したい。今後の進行方法については、まずメンバーから意見を集め、その中から実現可能な案を検討していきたい。「できる・できない」は一旦置いておいて、理想的な形を皆で出し合い、そこから具体的な方向性を決めていくべき。このプロジェクトは青谷町の住民の声から始まったことなので、住民のニーズをしっかりと反映させ、ただの「やった感」にならないよう、住民が本当に参加して良かったと思えるような形にしていきたい。皆さんの協力をお願いする。

(2) 青谷バスのダイヤ改正について

事務局より説明

3月10日から青谷バスの運行ダイヤの改正を行う。改正にあたってのポイントは以下の2点。

- ・JR 山陰本線のダイヤに併せた運行調整

- ・絹見引地地区の中学生がいなくなるので、路線の再整理を行う

【委員】 普段の通学ルートでは無いが、長和瀬に行きたいとなれば、予約をすれば乗れるという認識で良いか。

【事務局】 おそらく予約便の利用になると思うが、詳細は青谷タクシーに相談してもらえば、いい提案をしてくださると思うので相談してほしい。

【委員】 小中学校の学生がいるかどうかは、予め分かってダイヤを組んでいるのか。

【事務局】 分かって組んでいる。

【委員】 臨機応変にダイヤを調整するのはいいことだが、子供がいない地区には走らせないとすると、その地区の保護者はバスの存在や便利な使い方が分からないままになる。学校の先生も町外の人なのでバスの仕組はご存じない。バスのことを知らない人にも知ってもらえるようになればと思う。

【委員】 本来の使い方とは違うが、青谷バスは循環バスなので、1回200円で知り合いと共に観光遊覧として乗ったことがある。運転手も行先をガイドしてくださったりするので色々な使い方をしていけばいい。

(3) 令和7年度公聴の状況について

事務局より説明

青谷地域において、令和7年度に開催した公聴（地域の未来づくり懇談会、各地区の語る会）の状況について報告。

- ・地域の未来づくり懇談会：開催なし
- ・地区を語る会：勝部を語る会（支所参加）

質疑なし

(4) 鳥取大学地方創生プロジェクトについて

事務局より説明

鳥取大学の地方創生プロジェクトは、地域課題の解決に向けた体験型学習プログラムであり、学生は自治体と連携し、地域の問題を理解した上で、現地調査や住民との意見交換を通じて解決策を提案するもの。

今回総合支所から、青谷地域の廃工場跡地の有効活用について提出した。この跡地は長期間放置され、治安悪化や近隣への被害が発生している。学生チームは「和紙でつなぐ！工場跡地賑わい創出プロジェクト」を提案し、コストを抑えつつ地域振興と雇用創出を目指した内容が評価されグランプリを受賞した。

【委員】この提案で出たアイデアを、今後どのように活かし、繋げていくかが重要。特に、和紙工房との連携が大きなポイントとなる。住み分けや協力の方法をしっかりと考える必要がある。次に繋げるためには、支所だけでなく、未来会議や関係者と協力していくことが必要。

【委員】企業誘致についての話があったが、地域にある土地を活用し、適切な企業を選定して誘致する方が良い。青谷は元々物流拠点であり、インターも近いいため、物流関連の企業をターゲットにするのが現実的である。これにより、施設の設備投資を抑えつつ、地域活性化を進めることができる。

【事務局】企業誘致に関しては担当課と連携して取り組んでいるが、建物の処分や土壌の汚染対応が見込まれるため難しい状況。今後は全体的な活用ではなく、部分的な活用も視野に入れて、大学生の提案や企業誘致も含め関係部局で解決策を見つけていきたい。

【委員】大学生は普段キャンパス周辺で過ごしているが、意外と大学から離れた地域で活動したい、地域の人と関わりたいと思っている学生も多い。今回の発表で終わらせるのではなく、青谷地域と鳥取大学の学生が繋がるようなコミュニティやネットワークがあれば、お互いにとって有益な仕組になる。

【委員】大学生の発表を地元に見てみたら面白いのでは。オンラインでもよい

【事務局】 学生の予定もあるので、大学に相談してみる。

【委員】 当該用地の権利はどうなっているのか。

【事務局】 債務整理は一旦完了しているが、取得希望が無かったため現在は所有者無しとなっている。裁判所に申し立てすれば取得は可能。

(5) 公共施設の管理について

事務局より説明

公園などの清掃は基本的に住民にお願いしており、出されたゴミは市が処理するという形で運営されている。しかし、急激な人口減少や高齢化、コロナ禍の影響などにより、清掃作業等を担う住民が少なくなり、町内会での管理が難しくなっており、今後その傾向がますます強くなることが懸念される。

町内会が管理できない場合、隣接地での草刈りや安全面の問題などは市が対応する必要が生じるが、限られた人材と予算の中で、全ての要望に応じることは困難。

多くの市町では、町内会にお願いする形が続いている、それも難しくなりつつある。将来的には市が直接管理する必要性が高まるが、市民への公平性を保つため、異なる地域での対応に差が出ることは避けるべき。

市の協働のまちづくりの方針に基づき、市民と協力し合いながら施設を管理する方向で進めているが、町内会に加入しない人も多く、今後は町内会に頼らない新たな管理方法を考えなければならない時期が来る。

【委員】 地域の繋がりの減少が清掃などの地域で行っている作業や管理が難しくなっている原因と考える。地域の繋がりが強化されず、行政任せにすると費用がかかるため、住民同士の協力が必要。地域交流や顔を合わせる機会を増やし、地域で高齢者や障害者の支援を進めていくべき。

【事務局】 定年が延長するなど仕事に忙しい方、他人と協働が難しい方もおられると思うが、市としても地域内で協力していけるよう呼びかけを継続したい。

【委員】 地区によっては本当に物理的に人がいない、というところもある。大雪による倒木など、地域住民だけではどうしようもない時は行政に対応をお願いしたい時もある。直接でなくとも、土地の所有者に連絡してもらうなどの対応でもよい。

【事務局】 様々なケースが想定される。今後こういった部分で市が管理、市が手を貸すから町内会にお任せするというような、いわゆる一定の基準というものを検討していくことになる。

<協議事項>

(1) 空き家の有効活用、移住定住支援について

事務局より説明

青谷地域では人口流出を防ぐため、空き家を有効活用し、移住定住の促進を進めている。具体的には、NPO 法人「BFO じげ」と連携し、空き家紹介や移住希望者とのマッチングを行い、空き家登録の推進に取り組んでいる。

また、今年度から自治会に対して空き家情報の照会を行い、空き家登録の掘り起こしを行うなど、移住希望者に適切な情報提供を行う体制の整備を進めている。

【委員】 県外から青谷町への移住希望があるとのことだが、どのくらいあるのか。

【事務局】 本市の移住定住相談窓口には鳥取市全体での希望で問合せされることがほとんどだが、BFO じげがマッチングに力を入れており、結果として青谷町への移住実績が多いという状況である。

【委員】 自治会からのアンケート回答が 14 地区から 99 棟ということで、実際にすごい数があると感じている。

【事務局】 空き家の紹介について自治会から回答をいただくことは、地域が移住者の受入れに前向きかどうかを判断する材料としている。空き家を紹介して移住

しても、地域が受入れに否定的だと上手くいかない。そういう意味でも自治会へ継続してアンケートを実施していくことが必要だと考える。

【委員】世帯転出するときに空き家バンク登録してもらえないか。また、既に空き家になっている家以外に、近い将来空き家になりそうな家の情報も集められると良い。

【事務局】住民異動届時はその世帯が空き家になったかどうか確認できないので、勧奨が難しい。チラシを置くことは出来るかもしれない。空き家になりそうな家の情報なども、地域内からの情報提供が頼りになると思う。

【委員】状態が少々悪い家でも、個性的な家、魅力的な家であれば移住を希望される方をいると思うので、紹介する時の着眼点としてほしい。

【事務局】そういった視点は持っていなかったなので、参考にさせていただく。

(2) 青谷高校活性化を支援する会について

事務局より説明

青谷高校活性化を支援する会について、組織の見直しにより新たに地域代表として未来会議から委員を1名選出していただきたい。

【委員】この会は年にどれくらい、どんな活動をするのか。

【事務局】年に1～2回、大体平日の昼間、関係者で協議を行うもの。これまでは青谷高校が行う地域学習を指導する地域人材を紹介する取組などを行った。

⇒ 棚田美紀雄 委員を選出。

4. その他

小谷峻一委員が2月末をもって辞職。